

難関京都大学合格！

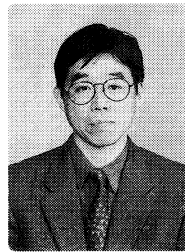
下館一高の進路指導の現状

進路指導部長

鯨

雅之

(五十二回卒)



今年度のセンター試験

大学入試センター試験参加
大学・短大数は昨年より5大
学増加し、840校(昨年8
35校)と過去最多となった。
大学入試センター試験志願者
数は、573,344人(昨
年555,537人)で、昨
年に比べ17,807人(前
年比103.2%)増加した。
内訳をみると、現役生志願者
数が、昨年の439,713
人から459,866人と2
0,153人増加した。一方
既卒生志願者数が昨年の10
9,748人から107,7
09人と2,039人減少し
た。

1,092,543人(昨年
1,056,462人)で昨
年に比べ36,081人(前
年比103.4%)増加して
いる。現役生センター試験志
願率は42.1%(昨年41
.6%)と0.5%上昇した。
現役志願率はセンター試験導
入以降上昇が続き、2009
年度に4割を超えた。前年の
2012年度は一旦伸びが止
まったが、再びわずかながら
も上昇した。

本試験の受験者数は、外国
語ベースで536,672人
(昨年520,674人)と
なり、志願者に対する受験率
は93.6%(昨年93.7
%)であった。

(河合塾大学入試センター
試験総括コメントより引用)

本校生の入試

今年度のセンター試験は、
昨年度よりかなり難しくなり、
基礎がしっかりしていない生
徒にとっては点数がとれない

入試になってしまいました。

特に国語の試験が難しく、国
語の点数で受験する学校を委
えなければならぬ生徒もい
ました。そんな中で下館一高
は、109名の生徒が国公立
に合格しました。難関の京都
大学に合格した生徒も出まし
た。県内の京都大学に現役合格
が出た県立高校は5校のみで
す。大学進学に向けてしっか
りとした目的をもって学習に
励んだ生徒がやはり合格を勝
ち得た割合が高かったよう
です。

一方失敗した生徒は、しっ
かりとした意志を持たず、他
人に流されやすい生徒が多か
ったようです。「自立」ができ
ることが大切です。

新年度になり、来年の受験
に向けてすでに新3年生は始
動しています。来年の入試も
大いに期待したいところです。

一学年概況

一学年主任 岩澤昌人

一学年がスタートして早い
もので、もう九ヶ月過ぎよう
としています。私自身も下館
一高に赴任してから七年間、
生徒指導、教務の仕事をして
おり学年から離れていたため、

入学した生徒と同じように新
鮮な気持ちで四月のスタート
を迎えました。初々しい生徒
達、ベテランからフレッシュ
な若手までバランスのとれた
学年教員団、全てが新鮮でし
た。

四月の遠足は各クラスで行
き先を決めてパーベキューや
飯盒炊爨に挑戦。まだ慣れて
いなかったクラスの仲間との
距離がぐっと近くなったよう
でした。

そして六月には七曜祭。初
めてで手探り状態でしたが、
朝から晩まで一丸となってバ
フォーマンスの練習や催し物
の準備。その甲斐あって、ク
ラスアトラクションでは一位
から三位まで独占するという
成果を出しました。

後期に入って十月の企業・
大学訪問。筑波大学をはじめ
とする名門国立大学やANA
などの有名企業の空気を味わ
うことで、進路に対しての大
きな刺激を受けたことと思
います。

そしてとにかく忙しかった
十一月でしたが、慌ただしさ
の中に、一年生のいきいきし
た姿を見ることができました。
九十周年記念式典の講演にお

ける司会での活躍。カナタと
の交流プログラムでは、23
名のホームステイ受け入れ生
徒を中心とした学年全体での
「おもてなし」。また、下旬に
実施した芸術鑑賞会では、劇
団四季のミュージカル「ウィ
キッド」に心から感動してい
る姿など。すべてが素晴らしい
かったと思います。

そんな何事にも懸命に取り
組む一年生を前にして、我々
学年団も精一杯頑張らなくて
はなりません。生徒達のため
に、そして下館一高のために、
これからも学年みんなで協力
して日々の教育活動に真摯に
取り組んでいきたいと考えて
います。



報 二学年概況

会 二学年主任 中村聡明

西 二年生を語る上で、修学旅行を抜きにするわけにはいきません。

十月六日から九日までの四日間、沖縄に行ってきました。前日からの台風二十三号の影響で飛行機が飛ぶのかどうか

わからず、欠航したときの対応など非常に悩まされました。なんとか運行することがわかったときの安堵感は今でも覚えて

います。しかし、台風は二十三号だけではなくありました。二十三号の真後ろに二十四号が隠れており、これが沖縄を直撃。結局二日目の行程は見直され、最終的にはホテルに缶詰という有様でした。

それでも、三日目以降は何とか持ち直し、平和学習などの行程は無事こなすことができました。台風等に悩まされた修学旅行ではありませんが、全員無事に戻って来られたことが何よりです。

さて、修学旅行も終わりに全国の高校二年生がこの時期から受験モードに切り替わりま

三学年概況

三学年主任 深谷 祐

うと高をくくっている生徒も多く見受けられますが、大学受験はそんなに甘いものではないと友人と競うのではなく、全国の高校生と競うのだということをもう一度確認させ、真の受験生へと変貌できるよう支援していく所存です。

今年は冬の訪れが早く感じられます。いよいよ年明けのセンター試験が目前になりました。センター試験後も国立大の出願、私立大入試、国立大二次試験と続きます。三月中旬の国立大後期試験まで頑張る生徒もいると思います。体調管理に留意し、最後まで気持ちを切らず、諦めず試験を乗り切って欲しいと切に

思います。さて、今年の三年生の特徴は「柔軟さ」「協調」「集中」「親好き」でしょうか。気持ちの切り替えが上手で、その時その時に皆で力を合わせて行動するのに長けている。部活動でも傑出したプレーヤー

はいないのだが、チーム力が高く、結果として多くの部が県大会に出場しました。圧巻は七曜祭で、多くの三年生が執行部に協力し、短い準備期間を駆け抜け、成功の原動力になりました。ステージ発表

壁新聞、クラス企画ともに質の高いものが多く、特にステージ発表は名演技あり、爆笑あり、涙あり、また構成や小道



具が光っている等でチーム力の高さを証左するものでした。これは九月のクラスマッチでも同じでした。さらに「親好き」が多い。親が自分のプレーを見に来ると瞬時に笑顔になる。すぐ手を振ってしまう者は数知れず。進路で親の意見と自分の意見は同じですと胸を張ってしまう。自分の意見はどつしたのかな？

しかし、三年生の皆さん、三年間よくがんばりました。よく下級生をひっぱりました。みなさんの頑張り忘れません。今は自分の進路を実現することに全力を注いでください。最後まで頑張れば、結果は必ずついてきます。

なお、今年度の十二月三十一日現在の進路決定者は次の通りです。

- 国立大 (14)
- 一般推薦
- 宇都宮大 (5)
- 群馬大 (3)
- 筑波大 (4)
- 信州大 (1)
- AO入試
- 群馬県立女子大 (1)
- 私立大 (25)
- 一般推薦
- 昭和 (1)

平成二十五年度 職員異動

一 退職者

講師 (英語) 下条茂樹

二 転出者

教諭 (数学) 上形 勤

教諭 (理科) (真壁高校) 大竹雄一

教諭 (英語) (古河中等) 立川正信

講師 (体育) (古河三高) 宮本悠里

非常勤講師 (数学) (境特別支援) 中嶋鉄郎

技師 (総和工業) 滝田昌男

三 転入者

教諭 (英語) 林 陽子

教諭 (理科) (岩瀬高校) 石川臣紀

教諭 (英語) (古河三高) 青木久幸

教諭 (体育) (筑波高校) 鈴木麻里

講師 (数学) (新採) 渡邊理男

非常勤講師 (体育) (総和高校) 鈴木喜雄

学校事務員 飛田恒雄

学校事務員 佐藤 広



主な大学合格者数

(年度は入試年度です。)

(主な国立大学)

大学名	25年度	24年度	23年度	22年度	21年度
東北	0	2	0	1	0
山形	3	8	2	1	4
福島	3	9	1	4	4
茨城	26	24	19	38	18
筑波	5	7	12	13	9
宇都宮	19	16	14	19	17
群馬	2	3	2	2	5
埼玉	11	9	4	7	8
千葉	7	4	1	4	3
東京	0	0	0	0	0
一橋	0	0	0	0	1
東京工業	0	0	0	1	1
東京外語	0	0	1	0	0
横浜国立	3	0	0	0	3
その他	4	9	10	5	7
国立大計	83	91	66	95	80

(主な私立大学)

大学名	25年度	24年度	23年度	22年度	21年度
国際医療福祉	7	11	7	14	27
獨協	10	5	12	14	12
文教	9	18	18	12	19
青山学院	4	7	6	6	10
大妻女子	4	14	0	12	12
北里	2	1	4	6	6
慶應	2	1	2	4	3
国際基督教	0	0	0	0	0
駒沢	13	6	10	13	14
芝浦工業	15	15	10	27	12
上智	0	0	1	0	1
専修	12	12	11	12	22
中央	7	22	5	11	17
津田塾	2	2	3	2	1
東京女子	3	4	1	1	4
東京薬科	0	0	2	1	5
東京理科	6	9	12	19	8
東洋	33	29	24	40	34
日本	23	21	22	37	30
日本女子	0	5	4	2	3
法政	12	7	13	16	25
東京都市	8	3	2	7	8
明治	6	17	10	12	19
明治学院	10	19	7	8	16
立教	1	38	4	4	6
早稲田	2	1	4	4	6
その他	305	365	234	217	341
私立大計	496	632	427	501	661

(主な公立大学)

大学名	25年度	24年度	23年度	22年度	21年度
高崎経済	8	4	0	5	6
県立医療	2	5	3	5	5
首都大東京	1	1	1	3	7
横浜国立	1	0	0	0	1
その他	14	23	18	6	12
公立大計	26	33	22	19	31

進路決定先人数

年度	国公立大	私立大	短期大学	専門学校	就職	未定・他	卒業者数
25	93	149	0	4	3	25	275
24	106	130	4	13	2	18	273
23	77	159	3	6	1	27	273
22	88	133	0	4	1	52	278
21	82	161	5	6	3	21	278
20	65	133	0	13	1	62	274

2014年度大学入試センター試験平均点

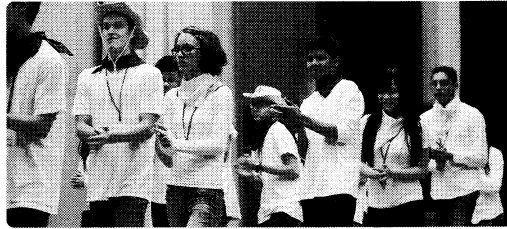
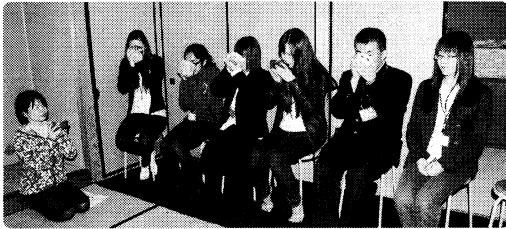
科目	国語	数学ⅠA	数学ⅡB	英語	世界史B	日本史B	地理B
本校平均	105.6	63.6	49	124	63.7	64	67.1
全国平均	97.60	63.47	56.51	121.63	70.23	67.86	71.49

科目	物理Ⅰ	化学Ⅰ	生物Ⅰ	リスニング
本校平均	55.4	62.2	52.2	33.8
全国平均	63.03	70.74	55.53	33.46

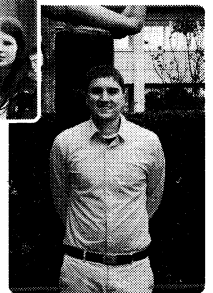
※ 全国平均は中間発表のものです。

Kakehashi Project

11月23日(土)～25日(月)にかけて、カナダのバンクーバーにあるシアコム高校から23名の生徒と2名の先生が下館一高にやってきました。
25日(月)には、シアコム高校生徒が日本料理や書道を体験し、学年集会ではクイズやゲームで盛り上がりました。
今度は、本校の生徒が、三月中旬にカナダを訪問することになります。カナダの異文化に触れ、いろいろなことを



身につけて、他の生徒にも異文化の違いを伝えて、相乗効果がでてくることを期待します。



ジョーダン先生が昨年の9月に赴任し、ご活躍をされています。先生はカリフォルニア出身で陽気でポジティブな性格です。気さくな性格のため生徒からも慕われています。先生の専門は日米関係だそうです。先生からは、英語のみならず、東アジアに横たわる日本と諸外国に横たわる諸問題についても学びたいですね。

Jordan Rowe

Greetings everyone! My name is Jordan Rowe and I am from the United States of America. My home is in the state of California. It is a great place with beautiful beaches and the original Disney Land! I hope you get the chance to visit there one day.

I studied International Relations (国際関係) at the University of Sacramento, so I am very knowledgeable about many places in the world. My specialty is Japanese-US relations (日米関係) and I hope to work at the US embassy in Japan someday. While there are a lot of differences between the US and Japan, such as culture and language, I think they are more similar than people believe. People in both countries enjoy some of the same food, cars, music, movies, books and much more. When people look at another country, they tend to only see the differences, at least at first. But if you go to a country and spend some time with its people, you begin to notice those differences less and realize that we are all very much alike.

This is why I believe it is important for all students to try at least once to live abroad for a year or half a year, to broaden their view of the world and possibly help guide them on the career path they choose for themselves. I studied abroad for half a year at Waseda University, and it was one of the greatest experiences of my life. My impression of Shimodate First High School is that it is a great place with many enthusiastic students passionate about their studies. I am very impressed with this school, and I believe its students are the perfect candidates for taking the challenge and living abroad to expand their knowledge of both themselves and of the world around them. Thank You.